科目ナンハ	(リング	U-LAS70 10001 SJ50									
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー:日本近世地域史入門 ILAS Seminar :Introduction to Japanese Early Modern Regional History									斗 准教授	三宅 正浩
群	少人数群	単位数		2単位		週コマ数		1コマ		授業形態	ゼミナール (対面授業科目)
開講年度· 開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)		5 (5) 人		配当学年		主と	こして1回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	文学部 教室 部構内)			陳列	東列館2階三宅研究室(本			使用言語	日本語	
キーワード	日本史 / 日本近世史 / 地域史 / 史料										

## [授業の概要・目的]

│ この授業では、日本近世(概ね江戸時代に相当)における地域の歴史を調査・研究するための方 法論を学ぶ。各自で特定の地域を選んで調査・研究し、成果を発表してもらうことになる。

日本近世史において、地域から考える視角は非常に重要である。日本近世は、全国各地で膨大な文書が書かれて蓄積された時代であり、現在まで、未発見のものも含めて大量の古文書が全国各地に伝来している。国家史や政治史といった中央の歴史からだけではなく、身近な地域の人々の有り様から歴史を考えることも大切である。地域の視点から、近世社会の特質とその歴史的展開を考え、全体像を見通す方法論を学び、楽しんでもらいたい。故郷の歴史を探究するもよし、全く縁のない地域を取り上げるのもまた、様々な魅力があるだろう。

## [到達目標]

- ・日本史学の基礎的な調査・研究の方法を学ぶ。
- ・地域の視角から歴史を考える方法論と意義を学ぶ。

## [授業計画と内容]

基本的に以下のプランに従って授業を進める。ただし、受講生の興味関心や調査・研究の進度に 応じて、順序や内容を変更することもある。

第1回 授業の進め方の説明

第2~5回 地域の選定と参考文献・史料の確認

第6~10回 途中経過報告会 第11~14回 最終成果報告会

第15回 総括討論とフィードバック

| 授業は、全員に数回ずつ報告してもらいながら進める。報告に際しては十全な事前準備が必要となる。また、他者の報告を聞いて討論することになるので、積極的な発言が求められる。調査・研究成果は、レポートにまとめて提出してもらう。

## [履修要件]

次の要件を満たすこと。

高等学校等で日本史Bを履修したこと 日本近世史に強い関心があること

- ILASセミナー : 日本近世地域史入門(2)へ続く

||ILASセミナー : 日本近世地域史入門(2) [成績評価の方法・観点] 調査・発表(40点)、討論への参加(10点)、期末レポート(50点) [教科書] 使用しない [参考書等] (参考書) 授業中に紹介する 各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。 [授業外学修(予習・復習)等] 選択した地域・テーマにもとづいて調査・研究を進め、担当日に間に合うように授業で発表する準 備をすること。 [その他(オフィスアワー等)] 授業を実施する場所(研究室)の収容力の関係から、受入人数は5人に限定する。 |初回の授業で授業の進め方を説明し、2回目の授業で担当地域を決めるので、必ず出席すること。